

## MCN 支部とダルマスタリ学校訪問 その3

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン  
理事長 マナンダール マダーブ ナラエン

私はネパールに帰国した時は、短い滞在中で忙しくても必ずミランダルマスタリ学校を訪問します。

8月の帰国での学校訪問2日目は寄宿舍と図書室を見てまわりました。寄宿舍では元気な子供たちに会え、図書室では司書をしているスミトラ・アディカリと話ができました。

スミトラはミランクラブの2000年からの里子で、現在は大学院生です。向学心のある、とても真面目な女性です。ご存じの方もいるかと思いますが、約10年前(当時7年生)に彼女は心臓ペースメーカーの手術を受けました。重い心臓病に罹っていて手術なしには生きられなかったのです。そもそも経済力がないのでミランクラブから支援を受け学校へ行っていたので、手術の費用どころではなく困り果てミランクラブネパールを頼ってきたのです。しかし、ミランクラブネパールも困ってしまってミランクラブジャパンに相談してきました。日本の役員会でも話し合われ、何人かの会員にも声をかけ、数人の方々からの善意のカンパが集まりました。確か治療費は約20万円だったと記憶しています。彼女はそれにより命を救われました。それから10年、彼女は一生懸命生き、勉強にも励みました。高校も1等で卒業し、短大、大学も優秀な成績で卒業しました。ミランクラブジャパンに命を救われたことから、私が学校訪問する度に、日本の皆さんに心からの感謝を伝えてほしいと言います。

彼女には2010年からミラン寄宿舍と一緒に生活することでの管理と子供たちの世話をお願いしています。彼女の真面目さと優しさは子供たちに人気です。

彼女の仕事は幾つかあり、大学院の単位は早朝での授業を取り、お昼前にはダルマスタリ学校へ戻り、図書室の司書として働きます。本来は学校の教師になりたいと大学では教育学部を専攻しているのですが、

毎日の長時間の立ち仕事は体に負担がかかることから医者から止められ、断念しています。しかし、校長先生の計らいで補助教員として短い時間だけ務めたりはしています。彼女に対しての給料は司書によるものだけで、その他は自ら子供たちのためにいろいろな役目を引き受けています。

今年、彼女は校内で突然倒れました。前回の手術から10年以上経ち、心臓ペースメーカーは耐用年数を超えていたのです。金銭的な問題もあり、医者からの忠告にも関わらず、そのまま頑張っていたので倒れ、救急車で運ばれました。手術費の用意ができず、ダルマスタリ学校教師の弟が保証人になり銀行から15万ルピー(約15万円)を借りて6月に手術をすることができました。退院後は家で療養を経て、経過も順調で、今は司書の仕事だけをしています。しかし15万ルピーの借金は一家にとっては大金で、将来を不安視していました。私はこの話を聞いていたので、負担が少しでも軽くなるようにと支援をしてきました。

彼女が健康を取り戻し、今までの努力が報われるよう願っています。



スミトラさん

話は変わりますが、ミランクラブの特別里親となり4名の里子支援をして下さっているダルマ・マナンダールさんがカトマンズにホテルをオープンすることとなりました。時期は未定ですが、従業員募集に当たり、里子たちを優先させたいと聞きました。ホテル経営学科、観光学科等で学んで、この仕事を希望する里子たちに声をかけたところ大勢集まり(写真左上)それぞれの希望を聞いたのは良かったです。仕事につながればいいなと思いました。